

令和4年度 第1回

陸別町総合教育会議会議録
(公開用)

自 令和4年10月25日

至 令和4年10月25日

陸別町総合教育会議

令和4年度 第1回 陸別町総合教育会議 会議録				
招集の場所	陸別町役場 3階 委員会室			
開閉会日時 及び宣告	開会	令和4年10月25日 午前9時27分	次長	副島 俊樹
	閉会	令和4年10月25日 午前11時07分	町長	野尻 秀隆
出席者	町長	野尻 秀隆	○	出席 5人 欠席 0人
	教育長	有田 勝彦	○	
	教育長職務代理者	西岡 愛則	○	
	委員	小木 育子	○	
	委員	後藤 和美	○	
説明のため会議 に出席した 者の職氏名	次長	副島 俊樹	主任主査	大鳥居 仁
	主幹	津幡 恵一		
	主任主査	遠藤 香奈		
会議に付 した事件	協議事項1 陸別町教育委員会所管事項の推進について			
会議の経過	別紙のとおり			

◎開会宣告

○副島次長 ただいまから令和4年度第1回陸別町総合教育会議を開催いたします。
初めに、野尻町長から御挨拶をお願いいたします。

◎町長あいさつ

○野尻町長 皆さん、おはようございます。

早いもので、暦を見ますと10月の月末ということでもあります。そんなお忙しい中、今日は集まっていただきまして誠にありがとうございます。御礼申し上げたいと思います。

それでは、本題に入りたいと思うのですが、第1回陸別町総合教育会議を開催するに当たりまして、先ほど教育長から事前のお話もあったと思っております。教育行政に私どもも陸別町、不都合なことがあるとは思っておりませんが、こうして国の制度改正で総合教育会議という場ができたわけでありますので、マイナスでなくてプラスのほうでいろいろ話をしていきたいと思っております。

今後の教育施策につきまして意見交換、また調整を行って、それぞれの思いや課題を率直に出して合って相互理解につなげ、より良い教育、さらには町政の推進に寄与していくことが大事だと思っております。

今日は、議案として1件であります。陸別町教育委員会所管事業について説明させていただきますので、皆様、どうぞ忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、開会の挨拶に代えさせていただきたいと思っております。

今日はよろしくようお願い申し上げます。

◎協議事項

○副島次長 それでは、議事に入りたいと思います。

ここからの進行は、野尻町長をお願いしたいと思っております。よろしくようお願いいたします。

○野尻町長 それでは、協議事項。

(1) 陸別町教育委員会所管事業の推進について事務局より説明をお願いいたします。

○副島次長 (1) 陸別町教育委員会所管事業の推進についてであります。各担当の事務局職員から、それぞれの所管事業の推進について説明をさせていただきたいと思っております。管理担当から社会教育、社会体育、給食センターと順次説明をお願いします。

○遠藤主任主査 管理担当につきまして、私のほうから説明させていただきます。

資料について、2ページをごらんください。

陸別町教育大綱の中に記載されております主な施策の中から、①学校教育の充実についての内容に基づき、説明をしたいと思います。

まず初めに、外国語教育の充実についてということですが、現在実施している内容につきましては、英語指導助手を配置し、小中学校への英語指導実施ということで、1週間当たりの平均授業時数は、中学校で15時間、小学校で5時間です。英語指導助手の方に、英語教諭と一緒にクラスに入らせていただきまして、授業を実施しているところです。

現状と課題ということでは、小中学校の英語授業には英語指導助手が今欠かせないと思います。今後も継続して配置が必須であると考えています。

参考までに、現在来ていただいている先生はカナダの方で、ティム先生に来ていただいておりますが、人柄はとても明るく、周りを楽しませようとしてくださる方で、子供たちにも積極的に声かけを行い、教職員とも友好的な関係を築けていると思っています。

現在の任期は、令和5年7月31日までとなっておりますが、本人の意向を確認したところ、1年延長していただけるということで確認を取っているところでございます。

次に、情報教育の充実についてであります。陸別町は1人1台のタブレットの整備が済んでおります。これは児童生徒及び教職員に1人1台ずつタブレットを導入して、授業ですとか授業以外のことでも積極的に活用しているところです。一部デジタル教科書といって、タブレットに教科書を取り込んで教科書と同じような形で使用することにも使っているところです。

現状と課題ということでは、ICT関係については授業以外にもいろいろな面で推進が図られているところでありますが、専門的な知識を持った職員が必要であると記載させていただきました。私もコンピューター関係はなかなか詳しくなく、今はICT担当ということで、北村主任にお願いしていろいろ進めていただいているところでございます。

次に、特別な支援を必要とする子供に対する教育体制の整備ということで、現在は、地域療育センターほか関係機関ということで、養護学校ですとか児童相談所などとの連携、また、北海道からスクールカウンセラーを派遣していただきまして活用したり、公認心理士による発達検査を実施したりということをしております。

現状と課題ということでは、こちらの関係につきましても専門的な知識が必要でありまして、関係機関の協力がなければ困難な業務であります。児童生徒に細やかな指導を行うためには、専門職を町に配置して進めていくことが必要かと思いますが、なかなか難しいと思います。

次に、小中一貫教育の推進でございます。現在の実施内容としては、小中児童生徒の交流ということで、児童会や生徒会活動、挨拶運動、ボランティア活動など、小中教職員の交流、合同研修会、校外巡視等、陸別ふるさと科の授業。中学校教諭の小学校への乗り入

れ授業、これは英語・算数・体育・音楽など。その他PTA活動などでも、いろいろな場面で小中一貫教育として合同で実施しているところです。

現状と課題ということでは、コロナウイルスの影響で研修会や視察など、一部実施できていないところもあるのですが、地元のことを学ぶ科目として、陸別ふるさと科の設置など新しい授業も進めているところでございます。今年度からは、児童生徒の英語・数学・漢字検定の受検料の全額助成を開始いたしまして、受検者数が増え教育効果も表れているのではないかと考えられます。

今後につきましても教職員を中心に、陸別の子供たちが「めざす中学3年生像」ということで「町ぐるみで育むきらりと光るりくべつの子ども～町への誇りと温かなところを持った子～」ということにつながるような事業を推進していくこととしております。

次に、設備や教材教具の整備ということで、子供たちの安全な学習・生活の場、地域住民の防災拠点として使用できるよう適宜施設の改修及び修繕を実施しているところです。

現状と課題ということで、小学校につきましても体育館の床の改修が必要と思われますが、床の全面改修には体育館の壁面を一部壊さないと改修できないと言われていたところですので難しい状況です。それから、バスケットゴールにつきましても、昭和46年の建設当初に設置されたものと思われまして、経年劣化により修繕が必要とすべき箇所が確認されているところですが、古過ぎて部品などもなく、修繕が難しいという点検の結果をいただいているところです。

中学校についても、体育館の改修が全体的に必要な部分もありまして、特にステージの照明器具付近の上部から雨漏りが今年度発生いたしまして、今は簡易的に修繕を行っていて、その後雨漏りは確認されていないのですが、今後もそういった懸念があるということで大規模な修繕が必要になる可能性がございます。校舎につきましても雨漏り箇所が多数確認されておりまして、その都度対応しているところです。

最近整備した事業といたしましては、小中学校とも普通教室や職員室などにエアコンの設置を完了しているところです。

最後に、スクールバスの安全な運行ということで、現在、町内4路線、上陸別線、小利別線、殖産トラリ線、西斗満線を運行しています。今年度については、小学校児童22名、中学校生徒15名の利用があるところです。

現状と課題といたしましては、今後も運行を担当している総務課管財防災担当との連携を密にいたしまして、農村地域等の児童生徒の通学手段の確保及び安全な運行に努めていきたいと思っております。今年度につきましてもスクールバス1台の更新を予定しておりまして、11月中に納入される予定となっております。

管理担当につきましても、以上です。

○大鳥居主任主査　それでは、社会教育の説明に入らせていただきます。資料のほうは3ページからになります。

社会教育の担当の分野では、教育大綱に載せてある部分が、生涯学習、青少年、芸術・文化、文化財と4項目にわたっておりますので、3ページから5ページまで、それらを一覧化して載せたのですけれども、全部読み上げるのは割愛させていただいて、要所だけ説明させていただきたいと思います。

3ページの横向きの資料になるのですけれども、一番上に社会教育担当についてと書かれている下に、左側に陸別町教育大綱というのを載せてあります。これが教育大綱に載っているところの項目で2番、3番、5番、6番が社会教育関係という形になります。これに対して、右側なのですけれども、これに対応する第9期社会教育計画、同じ内容ものがどこで対応するかということです。2番の生涯学習のほうにつきましては、社会教育計画でも2番で生涯学習、青少年につきましては、1番の社会教育の推進で対応すると。5番の芸術・文化活動については、生涯学習の中に一緒に入っています。6番の文化財は、社会教育計画では、4番の文化財の保護と活用で対応していますということで四角く囲んだ一覧の中は、全部で縦に五つに分けていますけれども、左側二つが陸別町教育大綱の基本施策と主な施策ということで、大綱に載っている文章をそのまま載せてあります。真ん中のところが、第9期社会教育計画でこれに対応する部分。その隣が現状と課題で、今年度とか最近のコロナ禍での状況、改善のための取組というのが一番右側というふうに並べてあります。

3ページは、生涯学習です。4ページが青少年の健全育成。5ページが芸術・文化活動の推進と文化財保護の推進という4項目を入れさせていただいております。

まずは、3ページの生涯学習の推進のほうなのですけれども、四角く囲ったところが主なキーワードになります。教育大綱のところでは、ここでのキーワードは学習機会の充実という形になりまして、主な内容のところでも、町民の自主的な学習活動という部分とそれから学習の成果を生かす機会という部分がキーワードになります。また、施設的には、公民館、図書館などの既存の学習室の効率的な利用を図るという部分がキーワードになります。

これに対応して、現状と課題なのですけれども、令和4年度、公民館でやった英会話教室が今後発展していく可能性があるということです。教室関係にたくさんの町民の方が来てくださるのはいいのですけれども、その後、町民の方々が集まった人たちの間で横のつながりができるかできないかという部分を重視すると、この英会話教室というのは雰囲気非常に良い講座になりましたので、少人数ではありますけれども、今後注目すべきかというふうに考えております。

生涯学習でも高齢者教育の陸別ことぶき大学なのですが、今年から、コロナで去年一昨年とできなかつたのですけれども、町外には出られません座学を始めています。こちらのほうは、今後コロナの状況を見ながら、なるべく町外研修を目指していく予定です。実はコロナが流行する前までは、必ず町外研修には20人から30人の申し込みがあった状態だったのですけれども、今は座学だと10人ほどしか申し込みがないという状態です。町外に行きたいというよりは、高齢者であればあるほどコロナに対する警戒感が強いのかなという感触が非常に強いです。

それから、同じく四角で囲んだところでいくと、公民館関係です。今、公民館のほうに図書館司書を配置することでできましたので、図書館の本の関係の仕事だけではなくて、今第9期社会教育計画で目指しているのが、公民館からいろいろなものを発信しようということで、発信源は図書室にしようとしています。司書の方には、図書の業務だけではなくて公民館の発信ということで、公民館で遊ぼうという事業とか、子供対象の本だけではなくて工作関係の事業も始めている形になります。

将来的には相当先の話になると思うのですけれども、公民館も改築を検討しなければいけなくなってくるかと思います。そのときに新たな公民館になるのか、それとも生涯学習センターみたいな形になるのか、あるいは全然別のものになるのかというのは、まだ全く絵を描いていないのですけれども、まずは既存の公民館の中でソフト部分、これだけ利用者がいますとか、これだけ活用する人たちがいますという部分をもう少し明確にしてからでないと、そういったハードのほうには手をつけられないかなというふうに考えています。そうした生涯学習活動の拠点に、今一度公民館がなるように目指している状態です。

先ほど司書の話をしてしまいましたが、公民館からの発信という中で、図書室の活性化を目指していますので、司書配置とともに読書推進を今進めているという形になります。

4ページに移ります。教育大綱では、青少年の健全育成という項目になります。こちらのほう、現在の社会教育では一番重要視しているのが、真ん中の列にあるジュニアリーダー活動の組織化という形になります。これは、子供たちの活動の中で小学生の活動をサポートする中学生、中学生の活動をサポートする高校生、高校生の活動をサポートする大学生や大人という形で、それぞれ上の先輩や大人が子供たちの活動をサポートしていく組織がジュニアリーダーなのですけれども、このジュニアリーダーが他市町村に比較して陸別町の場合はそれほど発展していないというところがあります。十勝管内では、結構活発なところがありまして、同じ東北部の本別町とかは全国的な活動をされているところだったりするので、ある意味3町の共同事業では、そうした恩恵にあずかれるところはあるのですけれども、陸別の場合はまだまだこれが最大の課題の一つになっております。

それから、重視するところといえば②番、ふるさと学の拡大ということで、管理担当の

ほうで話があった小中一貫教育に移ってから、ふるさと学がふるさと科として子供たちの授業の科目になりましたので、こちらのほうは地道に進んでいるところですのでけれども、課題としては地域資源として手をつけやすい文化財から入っていますので、陸別の寒さとか自然とか、あるいは産業に拡大していければと思っております。

それから、現状と課題の部分で、四角く囲っております。今年度から冒険・体験 i n と う きょうが魅力・体験 i n りくべつになって、キャンプ事業として今年、直営キャンプ事業としては初めて実施したところです。それから、海外研の代替で、今年はニセコの英会話研修というのを実施しました。来年度も海外研を目指すのですがけれども、今回、代替事業としてのニセコ英会話研修はそれなりの評価を得ていますので、来年海外研を目指しつつ、駄目だったらニセコ英会話研修は、非常にいい例として参考になるのではないかと考えております。

5 ページに移ります。芸術・文化活動の推進です。

こちらのほう、課題はいっぱいあって、後で申し上げますけれども、簡単に言ってしまうと芸術・文化活動の中心になっているのが、これまでの社会教育関係団体が中心です。いわゆる社会教育の中でも一番純粋な社会教育団体というところでは、全体的に構成員が高齢化してしまっているということで、ただただひたすら縮小の一途をたどっている状態です。

ここに関しましては、現状と課題ということで、現在タウンホールの音響設備の改修を今年と来年、2年間にまたがって実施しているところです。団体がだんだん小さくなっていくさなかにこのコロナ禍だったので、結構打撃が大きかった部分はあるかと思えます。

下の文化財保護の推進です。教育大綱では、文化財の保護と活用と書いてありまして、現状でも、先ほど言いましたふるさと科、これが主な内容になってくるのですが、後にも書いてありますように、文化財に関しては、国のほうの政策でも観光地化と結びつけられているところがありますが、基本は文化財保護を第一に活用をとという方針で進めています。

最後に6ページです。6ページのところに最近の社会教育を取り巻く状況というのを、簡単に説明していきたいと思えます。

項目は、教育大綱の項目に従って4項目に分けてあります。

まず、生涯学習の推進についてなのですが、30年以上前に社会教育という単語から生涯学習というキーワードが流行しました。今でも生涯学習の理念は重要視されていて、2006年に戦後初めて教育基本法が改正されたときに、初めて教育基本法の中に生涯学習の理念が入ったということなので、まだ生涯学習の理念が加わってからそんなに時間はたっていないのですが、ただ、既に生涯学習の目標というのに課題が生じてい

ます。理念の「人は一生学習するべきである」あるいは「学習する権利がある」といったところは、理念として今でも十分生きているのですけれども、当初、生涯学習という単語が出来上がって文科省が推進したときは、大人の人たちが学習して、学習した内容を社会に還元してくださいという、社会還元がプラスアルファでついていたのです。ところが10年たっても20年たっても30年たっても、社会還元してくれる人がそんなに増えないというのが生涯学習の課題になっています。学習したい人は永久に学習し続けるのですけれども、社会還元のところが課題となったのは、誰も学んだことを今度は自分が社会に生かそうという動きまでには至っていないということが課題として挙げられております。

それから、うちもそうなのですけれども、成人向け講座、全国的に参画が少なくなってきました。核家族化等、特に共働きの浸透が成人向け講座になかなか足を運べないという原因になっているのと、近年のインターネットで特にこれが大きいのですけれども、個人の学びが自由に、しかも無制限にできるようになってしまったということで、例えばお料理教室にしても、クックパットを見れば何でも好きな物をつくれるようになってしまったということです。この中で生涯学習事業の中ではことぶき大学がちょっと動いていますので、ことぶき大学の学習内容に成人学習を融合させていく方法がないかどうかとか、そういうところが検討材料として残されているのですけれども、最近の人生100年時代のところでいくと、生涯学習は遅かれ早かれリカレント学習、学び直しのほうにシフトしていこうと言われております。というのも、60歳定年でその後年金生活という人生プランが、全員100歳まで生きるようになりますと成り立たなくなるということです。今の中学2年生か3年生あたりの70%が100歳を超えるという数字も出ているという話ですので、人生100年時代というのはこれから大きな社会課題になってくるのだらうと。そのときに学び直し、職業に直結する学びなおし、第2の人生は悠々自適にではなくて、一つの仕事を終えたらまた次の仕事、次の仕事のスキルを得るための学習が生涯学習の中のメインになっていこうと考えられています。

社会教育という単語でいえば、そもそも欧米には社会教育はなくて、該当するものを探すとまさに職業訓練教育が大人の教育の現場になっていますので、それに近い状態になっていく可能性もあるだらうと考えております。

2番の青少年健全育成のところでは、

もともと社会教育というのは、戦後の混乱期、軍国主義から民主主義に日本の国民を教育しなければならないといったときに、子供は学校で民主教育を受けることができるけれども、軍国主義に染まってしまった大人をどういうふうにも民主主義に導き教育をしていくかということが課題となって、表れたのが公民館になります。この公民館も、各市町村に公民館を建てましょう。そこで大人の民主教育をしましょうというのは、終戦直後に発

せられているのです。今の教育体系が整う最初のところに公民館活動があって、そこで大人に対する民主教育をするのが社会教育というのが本来の社会教育のスタートです。そこからだんだん社会教育、子供事業にシフトしていったら、現在の主流は子供の体験学習が社会教育のメインになっています。裏を返すと、大人の民主教育は役割を終えたということです。民主主義に関しては浸透したということです。

20年ほど前に学社連携といいまして、学校と社会教育の連携というのが試みられました。学校教育と社会教育を連携させて、子供たちの体験をより充実したものにしようという形で進められたのですが、これは失敗に終わっています。結局、学校の学習指導要領という壁があって失敗というのが主流の評価です。それが、今はその反省を生かして、学校を核とする地域づくりというのが文科省のほうの指導でメインになってきています。どういうことかということ、20年前の修正版学社連携、学習指導要領で学校教育に入り込む壁があったので、学習指導要領に学校を核とする地域づくりをなささいというのを逆に盛り込んでしまったのです。先生方が学習指導要領に載っていないことはしないと言われたのですけれども、載せたらしないわけにはいかなくなりましたので、これが修正版学社連携です。そこに与党が進めている地方創生に教育の分野を入れたのが、学校を核とする地域づくりという形になります。最近よく言われているコミュニティスクール、学校運営協議会というのは、学校を核とする地域づくりの、まさに地方創生の一つの国から下りてきている主要施策という形になります。

ここで白矢印が書いてあるのですけれども、これは教育委員会というより、私個人のこれまでいろいろ聞いてきたところの個人的な意見です。誰もそうは言わないのですけれども、教育に地域格差を生じさせている結果につながっていると思っています。教育格差が生まれているということは、人口と産業経済だけではなくて、ここに教育が新たに加わってきましたというところを個人的には感じています。そうした中で、陸別の場合は人口が少ないことを逆にメリットと考えた政策が必要なのではないかと考えておきまして、例えば帯広市とか都心部、人口の多い都市部では不可能なことをやっていけばいいのではないかと考えています。要するに、分母が小さい分、都市部より費用負担が少ない状態でできる、いろいろな教育関係の無償化です。この流れの中で、カナダの海外研の負担は1人当たり10万円だったものを1万2,000円まで下げたというのは、この流れの中での政策というふうに考えてもいいのではないかと考えています。残念ながらコロナ禍になってしまって、実現していないのが実情なのですけれども。

それから、先ほど言いました社会教育の陸別の場合の一丁目一番地がジュニアリーダー活動の組織です。こちらは、同じグループの市町村に聞くと同じ課題なのですけれども、高校が地域にある市町村とない市町村で、ジュニアリーダー活動の組織化は全く白と黒に

分かります。地域に高校がある町は、高校のお兄さんお姉さんがいるので、中学生がジュニアリーダー活動に参加しやすい、あるいは憧れて参加したいと思う子が多くなる。それを見た小学生がそういう活動に入りたいという子が増えてくるということで、そもそもジュニアリーダーの子供たちは、大人がいろいろなサポートをしていく上で、高校生が一番事業を進める上で主力になっていくところがあるのですけれども、そうしたところが地域にないというのは非常に大きな課題で、これは陸別だけではなくて、他の高校の無い町もそうなのですが、大きなデメリット部分になってしまっているという形です。

芸術・文化活動の推進に行きます。

こちらのほうは、団体活動の衰退と書いてあります。文化協会がメインなのですけれども、そこに加盟している団体が衰退しています。これは、先ほどの民主主義としての社会教育の終焉と少し絡んでいるところがあって、当初の目的は達成されていて、そこから生涯学習、民主教育ではなくて個人個人の学習というものにスライドした結果であろうというふうに分析しています。今の若い人たちは、文化協会加盟団体の何とかサークルに入りたがらないです。入ろうとする若い人はほとんどいません。結構お母さん方でいろいろな活動をしているのですけれども、お母さん方がそういう活動しているのだったら、団体化して文化協会に加盟すれば公民館もただで使えるのですけれども、団体化はしません。代表者をつくるのは嫌いです。会計を設定して監査をするのも、そういうお堅いことはしたくないです。ただ、みんなで好きなときに集まって好きな内容のことをする、そういう活動を続けたい。仲良しグループなのですけれども終わりを見ているのです。文化協会加盟団体の団体がいろいろと後継者をつくって、先へ先へと団体活動をバトンタッチしようとしているのに対して、仲良しグループの活動というのは、子供たちが小中学校を卒業したら解散してその付き合いはなくなりますというところがありますので、そういったところからしても昔とは違う考え方ののだなというのを痛感しています。その下を書いてある、若い世代は団体活動から距離を置くというところがそこです。

これに対して、どちらかというと社会教育より社会体育のスポーツ関係のほうが指導者に習う関係で、世代間交流というのか、非常に世代の継承ができていないのではないかと。それでも減ってきていると言っていますので、社会教育よりは長く団体のいろいろな継承はできていきますけれども、それでも減っていつているのかなと感じております。

これからは、団体活動から個人活動、いつでもどこでもという形のものが求められてくるのかなということで、いろいろなことを企画するよりも、自主的にそれぞれの活動ができる場が必要となってくるのではないかという話を教育長ともさせてもらっています。

最後です。文化財保護なのですけれども、先ほど言いましたように、文化財保護の理念は今も変わっていないのですけれども、第一に保護、その上で活用です。文化財は非常に

地域資源として目立つので、国の施策として文化財プラス観光というのが推進され始めております。教育の分野でも地域資源の活用として文化財が取り上げられていますので、これからはやはり活用ということで、社会教育委員の会議でも国指定があったり関寛斎があったりするのだけれどもまだまだ地域に浸透していないという指摘がありますので、その部分を復習していければと思っております。

社会教育につきましては、以上です。

○野尻町長　それでは、続いてよろしく申し上げます。

○津幡主幹　7ページをお開きください。横長の表になりますけれども、こちらの表はまず左の上側にあります教育施設長寿命化計画から抜粋したものですけれども、開設年度の古い順に上から並べてみました。上からスキー場、スケートリンク、野球場、この辺は50年、40年過ぎています。少し色が変わっておりますけれども、水泳プールは改築の方向で今、検討委員会を立ち上げています。

その下、左の下になりますけれども、大会等もしくは教室等ということで、こちらも参加者の多い順に並べてみました。一番上の町民スポーツレク大会なのですけれども、こちらは今アンケートを取っていますので、今後どうなるかちょっと分からない状態です。

その下の真ん中ぐらい、29回日産カップ「歩くスキーの集い」とありますけれども、こちらは、日産の整備する機械が更新できないということで、こちらのほうも今後開催はないということでありまして。一番下のほうに教室だけ少ない人数になっています。

次に、右の表になりますけれども、令和3年度の施設の利用者数になります。小学校体育館で1,755人ということで、1,000人台ということはどういうことかということ、スポーツ少年団が4団体ある。その下のスキー場になると68人、ここは教室だけなので非常に少なくなる。ここが一番上が一番多くて、順番的には10番目が一番少ないという感じになります。中学校の体育館とかプールというのは、団体、スポーツ少年団、学校等が使うとやはり人数が多くなっているという流れになっています。

その中で、私は4月から担当なのですけれども、社会教育計画なり長寿命化計画なりということで、何年に改築そのまま維持するみたいなものはあるのですけれども、実際に担当して、人数が少ないから古くなったら使えなくなったらそのまま終わるという流れはそんな感じなのかなと。ただ、携わったスポーツの関係する人によっては、少ないけれどもやり方を変えたらいいのではないかと思う人もいるのかと思います。そういうのも担当だけ、例えば若い方が来て何年か一生懸命こなしてもらっていますけれども、何十年も先、この施設をこうして、陸別はこうしたらいいみたいな大枠まではなかなか考えるところまでいかないのかな。例えば思いつかないような発想だとかおもしろい発想で、実際に実効性があるのかということも、誰かの意見とか費用をかけてつくるのか、誰か育つというのが

あったらおもしろいかなというふうな意見でございます。

社会体育は、以上になります。

○野尻町長 それでは、給食のほうお願いします。

○津幡主幹 8ページの表になります。

上のほうから平成27年に給食を開始しまして、昨年まで、令和3年まで横にずっと記載しています。収入と食数が上の表で、次の表が賄い材料費。下に、率というのですけれども、収入より賄い材料費がオーバーしている部分を言っています。その下に、町内、町外の比率が書いてあります。右のほうから3番、令和1年—平成31年のところの上段に、令和2年に値上げしたのですけれども、真ん中の表で、率というところで19.5%、約20%収入よりオーバーしたと。なかなか厳しい状態になった。見合った給食費にしましょうということで、2年から値上げしました。そこでも13.6%、令和3年度も14%になっていますけれども、地域特性があってもどうしても他の町と大体同じ、もしくはちょっと高いぐらいにしてもやはり高い。始めたときに調べたときも、本別と比べても明らかに町内で買った場合に金額が違う。その部分は、ふるさと給食ということで予算を頂きまして柔軟に対応させていただいています。決して、他の町よりものすごくぜいたくなものを使っているというふうには思っていないで、一般的な給食、手づくりでこだわったり、出汁にこだわったりしているので若干費用はかかっているというところはあると思います。今後も地域特性がありますので今、値上げが続いていますけれども、10%ぐらいはふるさと給食という形で今後も給食の予算を見ていただければ、途中で今年のようにどんどん値上げがありました、さあどうしましょうといったときに、余裕がないと給食の献立を考えると、なるべく安いもの、あれをやめよう、これをやめよう、一気に減らそうということに実際になりますので、そういう部分がないようにと考えています。

一番下に文章で書いてありますけれども、令和4年度から株式会社りくべつのほうに調理業務を委託しました。なぜかという、やはり会計年度任用職員ということでお給料は決まって年度更新なのです。長年やっていただいた方に、来年どうしますか、ではやめますとされたときに、うちの町だとそれだけスキルを持った人を捜すことも難しいし、実際にパートさんも何回募集しても結局来ない。人がいないという状態なので、やはり働く方の賃金等から委託にしたということで確保していただいて、安心・安全プラス安定した給食を出すための人件費についても今後も必要かなと考えています。

以上です。

○野尻町長 それでは、全部の説明を終了したいと思います。

ここで、質疑、意見をお受けしたいと思います。1から4まで区切られていますが、まず1番、管理担当分について御意見を賜りたいと思います。堅苦しくなくていいので、気

がついたこと、こうしたほうがいいのではないかということでも構いませんが、御発言よろしくをお願いします。

○後藤委員 情報教育の充実のタブレットの現状と課題で、ICTの関係で北村さんが残ってくれていろいろメンテナンスや機械の全部やっただいていて聞いているのですけれども、町として今後専門職の人を雇って学校に置くとかという方針はあるのか。もしあれば学校も助かるだろうし、北村さんもずっといるわけでもないで、その辺どんなお考えがあるのかと思っています。

○野尻町長 このICTだけに限らずいろいろな部署で、時代はいろいろ変わってきていますので、こういった人が必要だという話は間違いなく出ています。まず現場の声を聞きながら、必要であれば措置していかなければならないと基本的には思っています。

○後藤委員 その下のスクールカウンセラーでもそうですよね。いろいろそういうところも専門職を置けたらいいのかなと。今、月に何回か来てくれていると聞いていますけれども、常時こちらにいてくれたら、子供たちも不登校とかが結構増えてそういう状況が見受けられるので、すぐ対応できるとなれば町にいてももらったらすぐ対応してもらえるのと思っています。

○野尻町長 そこは、十分に必要性は考えられるのです。ただ、お互いに助け合うという、広域的なことでも、どうしても人件費ってかなりかかる。

○後藤委員 分かります。

○野尻町長 必要なことを絞っていく必要があるのかと思いますので、そこら辺の状況報告だけは現場から出していただきたいと思っています。よろしいですか。

○後藤委員 分かりました。

○野尻町長 そのほか何かありませんか。

○西岡委員 タブレット関係なのですけれども、こういうものはどんどん進化していくものなので、新しいものが出てきたらどんどん更新していくような覚悟はあるのかなと。

○野尻町長 機械を使って便利になったということは、ずっと使えるものではありませんので更新していく必要もありますし、よりいいものになっていくのでお金はかかってくるというのは間違いのないのですけれども、それを初めからそれをやめるということはできないと思いますので、予算化なりして対応していきたいと基本的に思っています。どうしてもお金がかかるようになっている。何年で対応が終わるとかがありますので。

ほかに何かありませんか。

○西岡委員 先日学校訪問して体育館の現実ひどいと思って、雨漏りのことも言っていたので、あそこは本格的に改修しなければならないのではないかという気がするのだけれども。

○野尻町長　私も今日いろいろ話を聞いて、バスケットゴールも駄目だと思って体育館はひどいというのは分かったのですが、一番大事なのは子供たちに危険が及ぶものというのは気をつけなければならないと思うのです。果たしてどのぐらい危険なのか、危険だということが分かって、そのまま置いておくということにはいかないと思いますので。ただ、気がついたからといってすぐできるかという、じっくり教育委員会とも協力していかなければならないと思っていますが、委員会のほうでそこら辺は分かっていると思いますので、予算なんかもあるでしょうしやるならどのぐらいかかるとか、そういった資料づくりを進めていただきたいと思います。公共施設は計画性を持ってやっているのですが、突然の発見というのもあります。そこら辺も、順番があるからと諦めないで危険だと思ったら遠慮しないで言っていただきたいと思います。

そのほか何かありませんか。教育長、あれば。

○有田教育長　私のほうから何点か。

英語指導助手の関係については、歴代いろいろな方たちが来てやってこられたが、どうしても1人で来るとホームシックになってしまうという例が過去は多かった。ただ、今回とてもよかったのは、ティム先生自体がいい青年なのですけれども、結婚して既に家庭があつてということで、しかも日本人で英語も日本語も両方できる奥さんがいるというのはとても心強いです。もう1年更新してもらえるとということなので、いい環境を作って長くいてもらえるといいと思っています。あと、ティム先生の日本語の上達度は分からないのですけれども、何とか指導していただいて本人自身が日本語を話せるようにしてほしいと思っています。

I C Tの専門職の話がありましたけれども、心理的な相談ができる心理士の部分もそうなのですけれども、地元にはないわけではないという部分もあるのですけれども、そのところだけピンポイントでというのは難しいです。後で出てきますけれども、部活動の指導という部分も、今、一部教育委員会の職員を理科の授業に派遣していますけれども、通常、例えば管理担当等で仕事をしながら心理士の業務の仕事ができるというような人を採用できればお願いして、要するに基本的な仕事をちゃんと持った中で、随時専門的なノウハウを発揮していくという部分がいいかと思っています。先ほど北村の話がありましたけれども、僕より一つ上なのに何であんなに詳しいのだと思うぐらいですけれども、今、やれている状況があつてすごく助かっているので、北村自身がいなくなりました、引き継ぎがないのですということにならないように。そういうノウハウを持っている職員もいるということなので、うまくつなげていくような形になればいいと思っています。

体育館の改修とかいろいろ大変なのですけれども、一つ思っているのは、中学校の図書室ですけれども、小学校はまあ新しいので、中学校はもともと古いところの大規模改

修をやりました。気持ち的には中学校の図書室を思い切ってリニューアル、将来的に見て、一つは読書推進、もう一つは自習室的な会議室というところで、あそこは古くて暗いイメージがある。教室は教室であるのしょうけれども、教室はいろいろな子たちがいるので、放課後自分で学習したいという子は、家庭へ帰ってからとか公民館があるのですけれども、あそこの機能をよくできないかと。中学校から言われているわけではないのですけれども、図書館司書もいるのでうまく連携を取るために設備をもう少しよく、機能拡大できるようなものがあつたらいいのではないかと考えているのですけれども。遠藤さんどうですか。

○遠藤主任主査　いいと思います。

○有田教育長　すぐというわけではないのですけれども、現場の声なんか聞いて、タイミングのいいところで次につなげていければいいかと思って全般的にはうまくできているのかと。最近少し残念なのはスクールバスに部活動で乗っていない子がいたということで、あそこの連絡体制とか連携というのは今どうなっていますか。

○遠藤主任主査　今年からタブレットを利用して、その日は乗るかどうかというのを生徒にタブレットに入力してもらおうという方法で始めたのですけれども、それがなかなかうまくいかなかった。それを見て、誰も乗らないときには連絡をくれるようになっていたのですけれども、欠席なのか子供の入力間違いなのか、結局バスが行ったときに誰もいないということがあって、それからはタブレットだけではなくて、従前のように黒板に乘る、乗らないというのを生徒がつけるのですけれども、それと併せて今やっています。それでもたまにそういったことがあって、毎朝子供たち一人一人に乗るか乗らないか確認しなければいけないということになってしまう。ここ1か月はないのですけれども、今後も気をつけていかなければいけないと思う。

○有田教育長　せっかく町で経費出してもらっているのに、人がいないということはあり得ない話で、厚意で出してもらっているところがあるので、そこはもう少し学校側にも厳格に、今後は間違いないように。残念ながら過去にもそういう事例があつて改正していったというのがあるのですけれども、学校の先生も、当然運転手も変わったりするし、児童生徒も代わってくるので、毎年度必ず徹底してほしいという思いがあります。

○野尻町長　私から聞いたかったのだけれども、外国語教育の充実の中で、週当たり平均授業時数と書いているのですけれども、中学校15時間、小学校5時間。中学校はどういう曜日ごとの割り当てになっているのですか。

○遠藤主任主査　基本的には、週当たり15時間というのは、1、2、3学年あると思うのですけれども、3学年は毎日1時間英語の授業をやっていると思われまますので、3学年掛ける5で15時間が基本かと思います。小学校の5時間というのは、高学年を対象に

行っているのですが、学年別の時間は聞いていないのですけれども、平均するとこれぐらいの時間になるということです。

○野尻町長 皆さん、何か。管理担当、よろしいですか。

(「なし」の声あり)

○野尻町長 次に、2番の社会教育担当について、何か御発言ありましたらお願いしたいと思います。

○小木委員 海外研修ですけれども、継続してやったほうがいいと思って、

私この間天文台に来たカナダの学者の御夫妻に、朝会ったときに「Have a nice day」と言ったのです。そうしたらすごく喜んでくれて、夜の食事のときに道新と勝毎に載った記事を欲しいということを私に翻訳のソフトで見せてくれたのです。多分欲しいのだなというので、次の朝ごはんのときにそれをあげたのです。すごく喜んでくれて。ちょっとしたことで人とのコミュニケーションが取れて、勇気を持って一言かけたおかげでそういうことが発展したということがある。今の陸別の子供たちはいろいろな人と接触する機会が少ないので、どんなことでも、ジュニアリーダーもそうかもしれないけれども、いろいろなところに参加して、いろいろな人と交流することは自分の世界が広がると思っているので、海外に行かなくてもニセコで英会話教室をやったほうが子供たちの自信につながると思います。

○野尻町長 そのほかいかがでしょうか。

○後藤委員 関寛齋資料館というのは道の駅ですよね。僕は詳しくないのですけれども、もったいないと思っていた。道の駅だから人も来るので、寄ってもらえればという感覚だったけれども。昔は公民館にありましたよね。

○大鳥居主任主査 昔は公民館にありました。

○後藤委員 公民館も老朽化とあったので、これもお金の話になってしまうけれども、建て替えるとなったときに、施設を一緒に併用していろいろやるのだったら、そういうふうな方向性で、町として道の駅の今の資料館をリニューアルして大きくするという考えはないのかとったりしたのです。

○野尻町長 関寛齋自体が年々全国的に知られてきて、すごくファンが多いということをおもも感じている。あの資料館自体すばらしいというか、中のものはすごいものばかりなのです。私が議員のときも、あそこに入場料を払って行く人は年間大体同じぐらいで少なかった。陸別開拓の祖ですばらしい人であるので、委員おっしゃるように必要なことだと基本的に思っています。ただ、お金が絡むからどうこうではなくて、そこら辺もそれぞれの意見を要請していただければ考えていく必要もあるし、顕彰会という関寛齋のことを一生懸命やっている集まりもありますので、そういった方々の意見も聞きながら、将来ど

うするか考えて行かなければならないと思います。

○後藤委員　今すぐどうのこうのは難しいと思います。たまたまごはんを食べに来て、関さんの資料館があるから来て見たのだけれども、あんなところにひっそりあるのはもったいないというお客さんが何組かいます。

○野尻町長　確かにもったいないのです。ああいうのは、誰か分かっている人が説明して見ればすごい価値があるのですけれども。

○後藤委員　ただ見るだけなので、何かやれることがあったら、やってくれたら町のPRにもなるしいいのかと思ったりしたので。

○野尻町長　そこら辺も含めて考えて。

○有田教育長　後藤委員の話で、僕、賛同したいのですけれども、実は、担当とも公民館については、次期建て替えとっていました。今プールを何とかめどつきたいなど。ここで大きく金を食うのですけれども、できれば優先的にその後に、さっき大鳥居主査のほうから10年ぐらい先みたいなお話で、僕も以前そう話していたのです。議会でも話題になっているのですけれども、ぷらっとの横に大きな敷地が出てきて、あそこの使い道はどうか町長も大分問われているようなので、僕的にはあそこはいい場所だと思っていて、公民館は現地で建て替えは厳しいという感じはしています。僕の勝手なイメージでは、あそこの下からビルディング的にして何かあったらおもしろいかなと。下も民家ができてきているので、今いい場所ができたので、あそこに建て替えができれば、関資料館のものもそこに移設して、公民館と同じように管理する人がいれば、それを対応できる職員を配置することも可能かなと。そうすると、今ある道の駅も、関資料館の部分を別に有効活用してもらってという勝手な思いで、町長の耳にもちょっと入れてというような気持ちで考えています。

なかなかお金がかかるかと思っているのですけれども、社会教育の部分で言うと、文化団体とかサークル活動がやれなくなってきているという部分で、この部分を充実させるためには、起爆剤として公民館の建て替えが必要かと思っています。もしそれがすぐかなわないのであれば、中学校の1階の空き教室の部分をサークル活動の拠点となる場所をいち早くつくってはどうかという考えは持っています。

以上です。

○野尻町長　ほかに何かありませんか。

私のほうから、参考なのですが、先ほど委員からいろいろ交流は続けていただきたいという話があったのですが、皆さんも既に御存じかと思えますけれども、池田町の話が載っていました。日本のカナダ大使が第2回目の交流のときに、提携している都市からカナダから高校生時代に一月ぐらい来た。初めて日本を知ったのは池田だったのです。この前

歓迎会があったので私もお招きいただいたので行って来たのですが、大使ともいろいろ、もちろん日本語も得意で、私がこうして大使になったというのは、池田に初めて行って日本を知って、皆さんの優しい対応が気に入って、日本に関わる仕事をしてみたいということで夢を持って生きてきたのだと。陸別町もそうですし、鹿追町、豊頃町、足寄町、十勝では一生懸命カナダと交流しているのです。まだ私も3年間任務に着けると思うから、そういったことを一生懸命、池田に限らず皆さんのためになることをやっていきたい。

ただ、それがあったのは交流があったからこそということで、コロナでなかなか行ったり来たりできないのですけれども、そういうこともそれぞれの町村も大事なことです。ですから考えておいてくださいということは言われてきたので、先は見えないけれども、40何年経ってそういうこともあるので、子供にいろいろな経験させるというのはいいことだと改めて感じたところであります。

○有田教育長 国際交流の関係ですけれども、海外研修については、もともと陸別町とラコーム町だったのがラコーム市になって、そこでの国際交流を目的としてやっている中で、海外研修の派遣事業は一般もあって、そこに中学生も入ってきて、結果的には今、中学生だけが行っているということで、教育委員会が段取りしてやっている。カナダ側も民間でやっていて、ラコーム市長の考え方もあると思うのですけれども、今後、町としての国際交流の取組の方針と中学生の海外派遣事業について、今後どうすべきかというか、継続はありだと思えるのですけれども、我々としては、町の国際交流があつての海外研修なのかということ、ラコーム側にあまり負担をかけてもという思いもある。ふだんはメールのやり取りなので、できれば一度町長にラコーム市に行ってもらって、北村もいますので通訳をつけて、今後の海外研の派遣だとか国際交流の在り方について、これから先の10年、20年を見据えた中で、共通意識を持てるような話合いの場というか、行って確認する必要があるのではないかと考えているのですけれども、その辺どうでしょうか。

○野尻町長 そうですね。さっき担当のほうからも説明を受けたのだけれども、コロナで行けていなくて、また新たな考えでニセコのほうへ行って、それも結構評判もいいという話も伺ったので。それがずっとという意味合いでなく、その時代時代で考え直してみるというか、やめるやめないは別にして、こっちだけでできることではないし、あちらもあるし、そういう時期に来たのかという考えをしているということは間違いないのです。

○有田教育長 その辺も御検討いただければ。

○野尻町長 分かりました。

あと、何かありませんか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

○野尻町長 次に、3番目の社会体育関係、既に説明いただいているのですけれども、

いかがでしょうか。社会体育関係も課題があつて寂しい部分もあるのですが、何か御意見いただければ。

○後藤委員　ここにしても老朽化が進んでいるということなので、さっきと話が重複してしまいますけれども。パークゴルフ場が、奥のカラマツコースのところの木杭で変になっている、土地の絡みだと思ふのですけれども、あの辺はきれいに改修するという方向性はまだ何もないのですか。

○津幡主幹　あの部分は農地になっていまして、農業委員会から指摘もありましたので、あえてそこは使わないようにしている。

○後藤委員　それでああいう形になっている。僕もたまたま会に入ってやっているの上の人から何でと言われて。分かりました。あそこをきれいにするという計画は何もないということで、とりあえずあのままで。

○津幡主幹　農地転用には手間がかかる。

○有田教育長　指摘があつて調べたのですけれども、当初は農地だと分かっている図面があつたのですけれども、ちょうどつくったとき僕も担当でいたのですけれども、分かっている図面がありながら、実際にカラマツコースをつくったときには、農地にかぶった形の中で実施して、実際の話、横の農地の方も特に支障はなかつたというのもあつてできあがつた。分かつた以上は勝手に使うということにもならないので、からまつコースもたまたま広く、あその部分を少し削っても大きく支障があるという状況ではないという判断で、少しいびつな感じであるのですけれども、あまりお金をかけないでコース変更させてもらっているというのが実態です。

○後藤委員　分かりました。

○野尻町長　御容赦いただきたいと思います。

そのほか何かありませんか。

○後藤委員　給食どうですか、いろいろ値上がりして、僕も飲食店やっているので、とてつもない値上がりで打撃が来ているのですけれども、町内も買うところが少ないので、これを見たら町外と町内の比率を見たら同じか、町外の比率が上がっているので、食材の確保とか仕入れ値という感じで。

○津幡主幹　特に食用油が2年前は3,000円台だったのが今は5,000円ぐらい。

○後藤委員　そうですね。1斗缶3,900円が6,400円です。生徒数もだんだん減って、いっばいつくればそれなりのあれはあるけれども、少数になるとその分コストがかかるので。5年、10年のことは分かるかといったら分からないので、それなりに仕入とかいろいろかかってくると思うので、畑で野菜とかを作るところはいいかと思っています。あと、人員、給食センターの調理員が辞めた、入ったけれどもまた辞めたと聞くので、

その辺の確保が難しいと思いますけれども。

○津幡主幹　もちろんそれも難しいのですけれども、今いる方が長く働いていただけるように、そこがもし抜けたら給食が出さないということになってしまうと思います。

○西岡委員　経費削減も一生懸命やっていると思うけれども、実際は町が負担だから経費が上がっても面倒みますという腹があるのだったらあれだけ、なるべく努力してもらってということですね。最近網走でも給食の無償化を検討しているとか、他の町村でも無償化という話があるから。

○野尻町長　無償化に関しては、町とか村とか市の単位でなくて、本来は国がやるべきものだとは私に思っているのですけれども、この物価高も先が読めないのです、はっきり言って。読めない中で、今の時点でこうだからこうするというようなものにしたくないと思っているので、とりあえず我慢しながら継続していきたいと思っています。

○有田教育長　給食の話が出ましたけれども、うちは無償ですが、保護者から負担を求めているところについては、1円でも2円でも上げようと思ったら、事前に1年、2年かけてじっくりやっていかないと、周りの状況を見ていかないと大変だということがある。ただ今回、主幹から話がありましたけれども、令和元年から状況を見て令和2年に上げたのですけれども、どのみち町負担だから上げる下げるは関係ないのではないかという話もあったのです。ただ、あくまでもうちの給食は単価いくらでやっていますという実態は保護者には知ってもらわなければならないという考えがあります。無償が当たり前だという話にならないので、これだけ町で1人当たり252円、305円負担して、年間何万円負担してやっていますということはきちんと保護者として押さえておいてほしいという意味合いがあります。ずっと当初の値段でやっても、赤字の部分は町が負担すればいいのだという話のレベルではないという、そういうところで1回値上げに踏み切ったということなので、あくまでもうちの状況として、地元の購買力を保ちながらやるという、本当に工夫して頑張ってもらっているというところです。町外から買ったほうが安いのですけれども、当初から見ると大分町外に流れているようですけれども、逆に町内で物を出す能力も落ちてきているのもありますので、そこは町内業者とうまく連携を取りながらやっていく。将来、今の業者が撤退するなんてことになったときにどうするのだという話ですけれども、そこは危機感を持ってうまく町外とも流通を取りながら準備をしていくということは備えていると思っております。

○後藤委員　ちらっとうわさは出てきているので。他は結構撤退が増えてきているので、Aコープ自体が。名前出してしまいますけれども、他の市町村も結構撤退の動きが見えてきて人口の少ないところは無くなってきているので、陸別もリストに入っているらしいといううわさは聞いているので。うちらはなくなったら困るという話はしているのですけ

れども、遅くない先に何か起こる可能性はあると思います、今の状況でいったら。こうなると町としても商店が全然ないから、その辺の考えもしなければならぬのかという感じはあります。三好さんもあと何年かで俺は無理だとなってくると、セイコーマートは生鮮食品がないのです。そうなる町民の買い物をする場所もないし、結局外に流れてしまうので、そういうのも考えていかなければならぬのかな。商工会にも残ってもらうための努力しなければ駄目だという話はしているのですけれども、結局地元企業ではないので、上から言われてしまえば僕らはそうするしかないのだという話になっている。

○野尻町長 Aコープにしては、おっしゃるとおり地元資本ではないので、ただ情報は私にも入ります。地元の商店も、商工会でも危機感を感じていると思いますので、情報共有を図って。若い人はどこでも移動できるのだけれども、これだけ高齢者が増えると。

○後藤委員 この間もAコープで職員全員コロナになったときは相当大変だったので、セイコーマートの野菜や卵はすぐ無くなって、他に買いに行かなければならぬけれども足がないとか。結局息子さんとか娘さんが生活用品なんかを持ってきたというのを結構聞いたので。早かれ遅かれ、そういう状況にならないようにちょっと頑張らなければならぬのかという感じをしています。

○野尻町長 道内でも町村でそういったところが実際に発生していて、いろいろな手立てをやっているのです、知恵を働かせてやっていく必要があると思っています。

それから人材難。これは官庁だけでなく民間も募集しても人が集まらないということ。私どもだけが、例えば確保するために人件費をどんどん上げて確保するというのはいかかかなと思っていますので、そこら辺のバランスを見ながらやっていかなければならぬと感じています。

それと、町内の利用率が若干下がってきているのですけれども、当初から商店会との打合せを今もやっていると思うのですけれども、状況も変わってきたので、ある程度、このぐらい落ちていくのも致し方ないのかなという捉え方をしていますので。連絡だけは絶やさないようにしていただきたいと思っています。

ほかに何かないですか。あればいつでも出していただいて構わないですし、またこういう機会ができたらと思っています。

せっかくですから、担当のほうから何かあれば出していただきたいのですが。

○大鳥居主任主査 先ほど関資料館の話が挙がって、土地の話とかも出てきたのですけれども個人的に、平成12年に初めて陸別に来て関資料館を最初に見させてもらったときにすごい中の資料が、資料館としてはうまく配置されているというのを感じた資料館です。余りにもよくできているので、その後担当になってから顕彰会から定期的に内装を例えば10年とか20年に1回変えたらどうかと言われたのですけれども、これは完成された

配置なので変えなくていいですと言ったのです。それぐらい先見の明のある並び順になっていた。後藤委員がおっしゃったように、少しもったいないと感ずるのは、唯一、入り口がもっと広がったのです。

○後藤委員　あるかないかわからないとみんな言うのです。

○大鳥居主任主査　あそこは本当は階段で、エントラスというのがあって、今たまたま車椅子の通路を使って入っていますけれども、エントランスホールがあって、そこにソフトクリーム屋が建ってしまったので入り口が分からなくなってしまったのです。確かに資料館のお客さんの中に、こんなにすばらしい資料館はいつ道の駅にできたのか、道の駅が建った当初から毎年通っているけれども気づかなかったと言われて、建った当初からついていますと言ったら、びっくりしていたという事例がありました。入り口だけなんですよね。ソフトクリーム屋が入ったことによって非常に目立たなくなってしまったということで、社会教育委員の会議でも文化財審査委員の会議でも、入り口をもっと目立つように何とかできないかという話は上がっているのですけれども。

例えば公民館ところに移築を検討してみてもという話があったのですけれども、今ある公民館の場所だと、後藤委員や町長もおっしゃっていたように、町外発信という意味では立地的には中に入り過ぎてしまうのかと。ぷらっとの隣ぐらいたったら町外の方々も入ってくるスペースだとするといいのかなと、許容範囲に入るのかと思う。

実際に道の駅で何年前に調査を継続してやったことがあるのですけれども、陸別をゴール地点とする観光客というのはなかなか増えなくて、それでも僅かに天文台を見に行きましたという方々と、今で言うとふるさと銀河線、陸別鉄道を目的として来ましたという人はいらっしゃって、あとは、逆に通過点の中でたまたま銀河線があったから、資料館があるのを見つけたからという方が多かったということです。それでも、関寛齋を初めて知りましたという人は、20年勤務していてずっといらっしゃいますので、管内や道内だけ見てもまだまだ関寛齋に関しては伸びしろがあって、アピールする必要性はまだあるかと思っています。それで考えると町外発信というもともとの方針は重要視して置いたほうがいいのか考えています。資料館の中身は非常にすばらしいと思っていることと、町外発信の件で考えると、道の駅とセットというのは、入り口の問題さえ除くと、本来はいい位置だったかと考えています。

あと、海外研は、ぜひ北村さんと町長と1回行ってもらって。海外研は、ラコーム市の皆さんの意識、実行委員の意識と実際に向こうに行く派遣団の中の意識にちょっとずれがありまして、派遣団のほうは、今、中学校2年生と役場職員イコール団長1名と教師が1名ないし2名という形になっていますので、たまたま職員が研修で当たってしまった職員というのも、事業の位置づけ全体を100%把握していくというのはなかなか業務の中で

大変なところもありますし、学校の先生も子供たちの面倒を見るというほうが主体になってきます。どちらかというと中学校2年生のときに、町が子供たちを海外に行く機会をつくってくれているというのと、教育委員会サイドでは英会話能力というのを重視してきますので、英会話研修的な要素で行くのですけれども、ラコームの人たちはあくまで国際交流という形で受入れされている。子供たちが向こうへ行って各家庭に入って、各家庭全部を覗くわけにはいかないのですけれども、僕はコロナ禍の直前で行かせてもらったので、最後に行ったグループの1人なのですけれども、子供たちが英会話に慣れて、向こうの人たちと交流をしようと思っていて、そこは一致しているのですけれども、国際交流としての構えで向こうから来られると、子供たちも荷が重いというところがありまして、結果的に子供たちがいつの間にか陸別町の代表になっているという形です。国際交流の主演として。町民が一緒に行っていたときには、確かに交流になったのでしょうけれども、子供たちは英会話研修的な要素をメインに描いて、外国の方と言葉を通じて交流ができたらいいなという乗りで行ったのだけれども、向こうへ入ってみたら陸別町さん歓迎という感じで、陸別町さんは毎年よく来てくださいますねという、国際交流そのものを背負わされてしまうところがちょっとびっくりするところがある。

あと、向こうの人も陸別に来たいと言っていました。なかなか費用面で来られないのでという話は打ち明けられたところがあります。

それから、先ほど仕事の面で外国の方と交流という話がありましたけれども、実は私の行ったホストファミリーの方も日本で九州の熊本だったかで学生時代に日本料理の研究をしていて、日本人のホストファミリーにお世話になった方がホストファミリーになってくれていたのです。日本での思い出が忘れられなくてこの事業に協力してホストファミリーになりましたと言ってくくださったので、回り回って日本人がいろいろ手助けしてくれた御恩がまた僕のところに返ってくるということで、それは僕も同じようなケースとして感動しました。

そういったところでは、子供たちにとっては貴重な機会になるのだけれども、陸別町とラコーム市の国際交流と子供たちが派遣されることの位置づけというのは少し整理してあげたほうがいいのかというのは感じております。

○野尻町長　そのほか。

○津幡主幹　社会体育関係でありますけれども、先ほど老朽化ということで、建て替え等も将来的には考えている。もう少し維持管理に、外観などに予算を計上していこうかなと。直しながら長く使えるようにと考えています。教育長のほうからわくわくする予算が出たので、予算を別として、何か考えてみようかと思っています。

以上です。

○遠藤主任主査　いろいろ人の配置ですとか施設の改修ですとか、お金に関わる部分も多かったのかと思うのですが、これから内容を検討して上げていくものは上げていきたいと思います。

○野尻町長　ほかにはないですか、よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○野尻町長　それでは、これで協議事項を終了させていただきたいと思います。

今後ともこの会議、教育委員会と我々町と協議、調整、いろいろな意見をいただきながら進めていかなければならない。教育行政をこれから担っていくことになります。

また、本日出された意見や思いは、それぞれの立場で進められることを切に願っておりますので、皆様とこれからも力を合わせていきたいと思っています。

◎閉会宣告

○野尻町長　それでは、また機会があれば、こういう場を設定していきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

閉会　午前11時　7分

会議録作成職員　遠藤香奈